

報道関係各位

～ CSR のベストプラクティスとしての社会貢献活動を顕彰 ～

「第11回 企業フィランソロピー大賞」贈呈企業を決定

人と企業の社会貢献を推進する公益社団法人日本フィランソロピー協会（東京都千代田区、理事長高橋陽子）は、企業の経営資源を有効に活用し、社会問題解決のために一石を投じた企業を顕彰するために創設した「第11回 企業フィランソロピー大賞」を以下のように決定しました。

◆ 企業フィランソロピー大賞

カネパッケージ株式会社 (埼玉県入間市)

◆ 企業フィランソロピー賞

《いにしえを未来に綴る賞》

キヤノン株式会社 (東京都大田区)

《地域のよろずや賞》

但陽信用金庫 (兵庫県加古川市)

《社会変革への礎賞》

日本電気株式会社 (東京都港区)

贈呈式は、2014年2月27日（木）午後2時から、プレスセンターホール（東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル10階）にて開催します。

「企業フィランソロピー大賞」について…

社会の課題解決のために自社の経営資源を有効に活かし、経営理念に則った社会貢献活動を顕彰するため、当協会が2003年（平成15年）に創設したもので、今年度は11回目を迎える。

◆ 選考基準

- ① 社会性：企業活動の中で人権・環境等を優先させた行動
- ② 先駆性：固定観念や既成概念を覆して新たな社会価値を創造した行動
- ③ 波及性：21世紀の新たなビジネスモデル（企業のあるべき姿）として影響力に富む行動
- ④ 経営との関連：応募活動の経営理念・方針等との関連性、また経営陣の関与の仕方など
- ⑤ 従業員の関与度：この活動に多くの従業員が関与しているか、外部団体への依存度はどうか

◆ 選考方法

書類審査ならびに訪問調査（ヒアリング）を併用

◆ 選考委員（敬称略）

委員長 武田 晴人 東京大学大学院経済学研究科 教授
岩田 喜美枝 株式会社資生堂 顧問、公益財団法人21世紀職業財団 会長
佐藤 雄二郎 一般社団法人共同通信社 専務理事
渋澤 健 公益財団法人日本国際交流センター 理事長、コモンズ投信株式会社 取締役会長

公益社団法人日本フィランソロピー協会について…

1963年（昭和38年）設立。1991年（平成3年）からは、個人や企業のフィランソロピー（社会貢献）活動の促進を目的に各種事業を実施。2009年（平成21年）公益社団法人として認定。会員数は116社（2014.01.01現在）

<本件に関するお問い合わせ先>

公益社団法人日本フィランソロピー協会

担当：藤川祥子、石樽康利

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル244区

TEL: 03-5205-7580 FAX: 03-5205-7585 URL: <http://www.philanthropy.or.jp>



贈呈理由

◆企業フィランソロピー大賞

カネパッケージ株式会社

活動の名称：マングローブ植林活動

<贈呈理由>

同社は、コア技術の「究極の緩衝設計」活かし、主に精密機械用に省資源化した梱包材の設計開発事業をアジア6か国で展開している。もともと捨てられる目的で作られている梱包材には環境負荷が高いイメージがあるため、2009年に、CSR活動としてフィリピンにおける「マングローブ植林活動」を始めた。

特筆すべきは、開始するにあたって、植林担当専従者としてフィリピン大学の林業専攻の卒業生を採用したこと。フィリピン環境省や埼玉大学大学院とも連携して自然界の生態系バランスに配慮した植林を実施し、また植林後のメンテナンスには地元住民を雇用し、地元経済にも貢献している。

この活動は同社の経営における重要課題であり、6か国グループ全体売上の0.1%を財源とし、毎年100万本を目標に、2009年11月から現在まで、フィリピンで、合計約380万本（109ヘクタール）の植林を実施した。

毎年2回（通算10回）の植林活動には、同社グループ約700名の従業員の中から、既に延べ約220名が参加している。その体験と感動を現地の人々と共有することにより、従業員が同社の目指す環境保全および環境配慮事業への意識を高め、自社の存在意義と役割を再認識し、事業への更なるモチベーション向上へとつながっている。

本業の梱包事業での省資源・省エネルギーと、植林活動によるCO2オフセットとの一体化は、経営の目指すべき方向を示すメッセージそのものであり、企業フィランソロピーの真髄を具現化したものとして高く評価したい。

◆企業フィランソロピー賞 <<いにしえを未来に^{つづ}る賞>>

キャノン株式会社

活動の名称：綴プロジェクト（正式名称：文化財未来継承プロジェクト）

<贈呈理由>

日本の貴重な文化財の中には、海外に渡った作品や、国内にあっても鑑賞の機会が限られている作品が数多く存在する。同社は、本業の高いデジタル技術と、プリント技術を組み合わせて、貴重な文化財の高精細複製品を製作することで、オリジナル文化財の「保存」と複製品の「公開」・「活用」を行なう活動「綴プロジェクト」を、特定非営利活動法人京都文化協会と共に、2007年より継続実施している。

完成した高精細複製品は、オリジナル文化財の現所蔵者や海外に渡る以前に所有していた社寺、博物館、大学、あるいはその文化財にゆかりのある地方自治体などへ寄贈されている。作られた当時の風情を肌で感じることができるイベントなどで積極的に活用し、多くの人々が我が国の文化を身近に感じ、伝統技術への思いを未来につないでいくことができる。活動開始以来、国宝級の文化財を毎年3～4作品複製し、これまでに27作品を数える。要望は各地からあり、対象候補は日本だけでなく世界に存在するので、さらにこの活動を拡大継続していく考えである。綴プロジェクトに用いる技術は、カメラ・プリンター開発部門の多数の技術者魂と粘り強い努力の結実である。誇るべき技術を駆使したこの活動は、社内外に丁寧に伝えられ、その伝承技術の意義と価値を上げる工夫も評価に値する。

社会の課題に対し、「高度な技術力」と「専門性のある多様な人材」を活用するという基本方針に則ったフィランソロピー活動として称えたい。

贈呈理由

◆企業フィランソロピー賞 <<地域のよろずや賞>>

たんよう
但陽信用金庫

活動の名称：職員全員による継続的地域社会貢献活動

<贈呈理由>

同庫の倫理憲章には「地域社会が金庫の存続基盤であることを自覚し、社会と共に歩む“良き企業市民”として積極的に社会貢献活動に取り組みます」と明記され、全職員が「よろず相談信用金庫」と標榜した事業経営活動に参画し、それを原点に置いた人材教育が行われている。

NPO 法人として運営されている“但陽ボランティアセンター”は、職員全員持ち回りで、毎日6名の信金職員が3チームに分かれ、3台のリフト付きワンボックスカーにより、障がい者やお年寄りの「移送サービス」を担当している。

また、非常時の緊急通報システム“ベルボックス”は、会員登録を希望した一人暮らしのお年寄りに携帯ボタン装置を配布し、緊急時にボタンを押すと担当者が察知して、電話を掛けて対応する仕組み。職員全員が認知症講座を受講し、ほとんど全員が「認知症サポーター」の資格を取得して、毎月1回は一人暮らしのお年寄り宅を「ケア訪問」している。そのほか、お客様のあらゆる相談に乗る“よろず相談室”や、店舗を子どもたちの緊急避難所として提供する“子ども110番”、地域イベントのためのボランティアを社内公募する“地域のイベント支援”など、職員全員が地域社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。

地域社会に不可欠な金融機関の存在意義を、本業と社会貢献の両輪で示す気概と努力は、高く評価できるものである。

◆企業フィランソロピー賞 <<社会変革への礎賞>>

日本電気株式会社

活動の名称：NEC社会起業塾

<贈呈理由>

同社は2002年より、10年以上にわたり、社会課題に事業で取り組む事業型NPO・ソーシャルベンチャーの育成を目的とした「NEC社会起業塾」を、特定非営利活動法人ETICと協働で推進してきた。

このプロジェクトでは、事業のスタートアップ段階での基礎作りをはじめ、社会起業家と支援者の出会いの場の提供や広報支援など実践的なサポートが行われている。既に45団体が受講終了し、現在39団体が各分野のトップランナーとして活躍中である。

行政や企業だけでは解決できない多様な社会問題が噴出する中、新たな知恵とネットワークで解決しようとする若手社会起業家の育成は、既に日本の社会に大きなインパクトを与えており、企業・NPOとの連携による「新しい公共」の好事例として、他社が同様の取組みを行なうまでに広がった。

2010年からは、同社社員がプロボノとして修了生と積極的に関わり、支援を行なうと共に、逆に社会変革現場から生活者視点の新たな刺激を受ける機会が生まれている。この活動を通して、社員の社会問題に対する関心や、社内の様々な課題・機会にチャレンジしたいというベンチャー精神が高まり、社会に多様なビジネスモデルを提案する社会価値創造型企業への志向を後押ししている。

同社はこのプロジェクトの効果測定を、社会にとって／企業にとって、という両輪により10年単位で定量評価しており、「社会に投資するから『100年企業』が存在する」という基本認識に基づく「超長期投資」と位置付けているところも、高く評価したい。

これまでの受賞企業一覧

- | | | | |
|---|---|--|--|
| <p>第10回
2012年度</p> <p>贈呈理由</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 大賞
株式会社 リコー ◆ 特別賞／働く誇りを共に賞
株式会社 オージス総研 ◆ 特別賞／地域共生賞
京セラ株式会社 滋賀蒲生工場・滋賀八日市工場 ◆ 特別賞／次世代への懸け橋賞
ゴールドマン・サックス証券株式会社 ◆ 特別賞／チャレンジ・スピリッツ賞
株式会社 モンベル ◆ 奨励賞
ネットオフ株式会社 | <p>第9回
2011年度</p> <p>贈呈理由</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 大賞
ヤマトホールディングス株式会社 ◆ 特別賞／水辺のコミュニティ創造賞
青梅信用金庫 ◆ 特別賞／“田から”の子ども育成賞
宝ホールディングス株式会社 ◆ 特別賞／地球市民教育賞
パナソニック株式会社 ◆ 特別賞／パンが運ぶ共生賞
株式会社 バン・アキモト |
| <p>第8回
2010年度</p> <p>贈呈理由</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 大賞
アメリカンファミリー生命保険会社 ◆ 特別賞／先進雇用モデル賞
アイエスエフネットグループ ◆ 特別賞／人財ハローニー賞
株式会社 加藤製作所 ◆ 特別賞／未来への環境リレー賞
シャープ株式会社 ◆ 特別賞／いのちを救うバードアイ賞
株式会社 バスコ | <p>第7回
2009年度</p> <p>贈呈理由</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 大賞
中村ブレイス株式会社 ◆ 特別賞／いのちの架け橋賞
飯田電子設計株式会社 ◆ 特別賞／美は心とともに賞
株式会社 資生堂 ◆ 特別賞／自然共創賞
積水ハウス株式会社 |
| <p>第6回
2008年度</p> <p>贈呈理由</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 大賞
株式会社 フェリシモ ◆ 特別賞／地球共生賞
味の素株式会社 ◆ 特別賞／社会共生賞
有限会社 風曜日 ◆ 特別賞／ユニバーサル社会賞
株式会社 丹青社 ◆ 特別賞／住育・家族の絆賞
株式会社 ミセスリビング | <p>第5回
2007年度</p> <p>贈呈理由</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 大賞
株式会社 滋賀銀行 ◆ 特別賞／企業市民賞
松下電器産業株式会社 ◆ 特別賞／地域環境賞
大和信用金庫 ◆ 特別賞／社会共生賞
ヤマト運輸株式会社 ◆ 特別賞／子どもの心育成賞
木下サーカス株式会社 |
| <p>第4回
2006年度</p> <p>贈呈理由</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 大賞
アプリシエイトグループ ◆ 特別賞／NPO支援賞
近畿労働金庫 ◆ 特別賞／町なみ再生チャレンジ賞
建都住宅販売株式会社 ◆ 特別賞／地域の子どもの安全賞
総合警備保障株式会社 | <p>第3回
2005年度</p> <p>贈呈理由</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 大賞
株式会社 カタログハウス ◆ 特別賞／地域共生賞
株式会社 いろどり ◆ 特別賞／コミュニティ・フィランソロビー賞
大阪市信用金庫 ◆ 特別賞／奨励賞
トヨタ自動車株式会社 バイオ緑化事業部 ◆ 特別賞／地球共生賞
山梨日立建機株式会社 |
| <p>第2回
2004年度</p> <p>贈呈理由</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 大賞
株式会社 今井書店グループ ◆ 特別賞／地域エコロジー賞
油藤商事株式会社 ◆ 特別賞／コミュニティ・フィランソロビー賞
多摩中央信用金庫 ◆ 特別賞／社会共生賞
日本理化学工業株式会社 ◆ 特別賞／企業市民賞
富士電機ホールディングス株式会社 | <p>第1回
2003年度</p> <p>贈呈理由</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 大賞
株式会社 木の城たいせつ ◆ 特別賞／コミュニティ・フィランソロビー賞
株式会社 アモール・トーワ ◆ 特別賞／企業市民賞
富士ゼロックス株式会社
『拡大教科書』製作支援サービス ◆ 特別賞／リレーションシップ・バンキング賞
西武信用金庫 |